

平成19年度 主要建設資材需要見通し

国土交通省総合政策局建設市場整備課

わたなべ たいすけ
資材係長 渡邊 泰伴

1 はじめに

国土交通省では、建設資材の安定的な確保を図り、円滑な建設事業の推進に資することを目的として、毎年度、予算成立後に公表される「建設投資見通し（国土交通省総合政策局情報管理部建設調査統計課）」と「建設資材・労働力需要実態調査（平成15年度原単位）」をもとに、建設事業に使用される主要な建設資材の年間需要量を見通し、その結果を「主要建設資材需要見通し」として公表している。

本稿では、平成19年6月19日に公表した「平成19年度 主要建設資材需要見通し」の概要を報告する。

2 平成19年度の主要建設資材需要見通し

図 1 を参照。

3 平成18年度及び19年度の概況

平成18年度の主要建設資材の需要量は、同年度の建設投資（見込み値）が対前年度比1.7%減（実質値）で、うち建築部門では1.0%増、土木部門では5.2%減となったことから、生コンクリート、骨材及び普通鋼鋼材は増加し、セメント、木材及びアスファルトは減少となった。

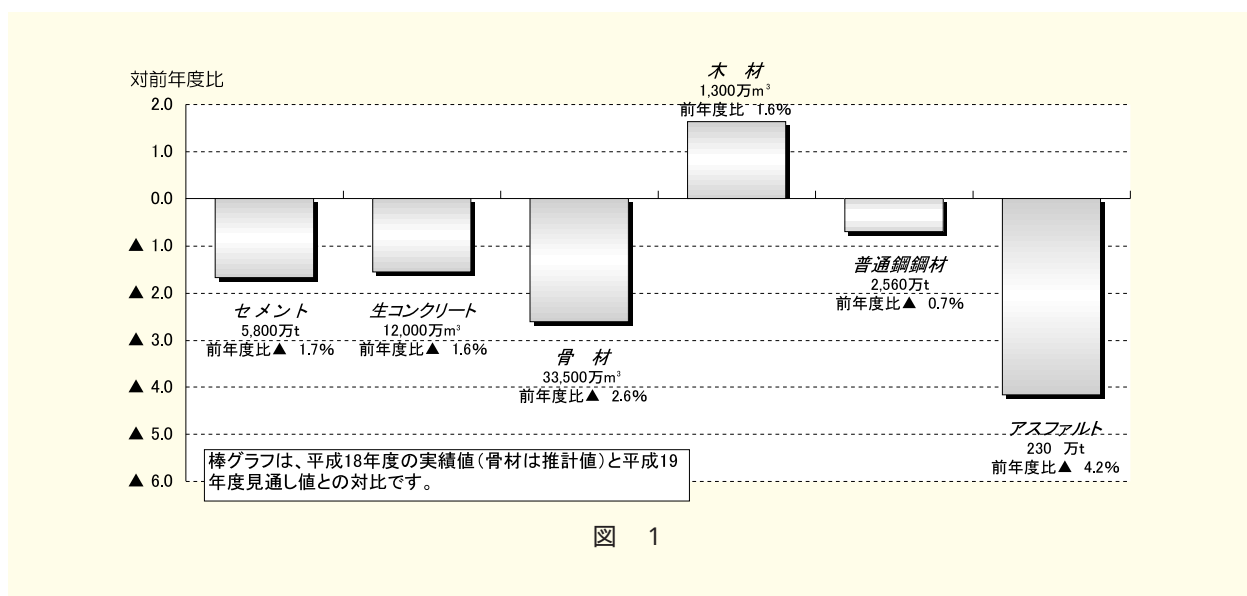


図 1

平成19年度の主要建設資材の需要量は、同年度の建設投資（見通し）が対前年度比0.7%減（実質値）で、うち建築部門では1.4%増、土木部門では3.6%減と見通されていることから、木材をのぞいた、セメント、生コンクリート、骨材、普通鋼鋼材及びアスファルトは減少する見通しである。

セメント、生コンクリート

平成18年度における需要量は、セメントが対前年度比0.2%減の5,899万t、生コンクリートが対前年度比0.3%増の12,190万m³であった。平成19年度については、セメントが対前年度比1.7%減の5,800万t、生コンクリートが対前年度比1.6%減の12,000万m³と見通される。

骨材、砕石

平成18年度における需要量は、骨材が対前年度比0.3%増の34,400万m³、砕石が対前年度比0.1%減の16,400万m³となったと推計される。平成19年度については、骨材が対前年度比2.6%減の33,500万m³、砕石が対前年度比1.8%減の16,100万m³と見通される。

木材

平成18年度における需要量は、対前年度比2.8%減の1,279万m³であった。平成19年度については、対前年度比1.6%増の1,300万m³と見通される。

普通鋼鋼材、形鋼、小形棒鋼

平成18年度における需要量は、普通鋼鋼材が対前年度比4.4%増の2,578万t、うち、形鋼が対前年度比4.7%増の593万t、小形棒鋼は対前年度比8.9%増の1,099万tであった。平成19年度については、普通鋼鋼材が対前年度比0.7%減の2,560万t、うち、形鋼が1.2%増の600万t、小形棒鋼が0.8%減の1,090万tと見通される。

アスファルト

平成18年度における需要量は、対前年度比3.1%減の240万tであった。平成19年度については、対前年度比4.2%減の230万tと見通される。

4 目 的

建設事業に使用される主要な建設資材の平成19年度における年間需要量の見通し結果を公表する

表 1

資材名称	単 位	需要量			伸び率	
		H17年度 実績値	H18年度 実績値	H19年度 見通し	18/17	19/18
セメント	万 t	5,909	5,899	5,800	-0.2%	-1.7%
生コンクリート	万 m ³	12,155	12,190	12,000	0.3%	-1.6%
骨 材	万 m ³	34,313	34,400	33,500	0.3%	-2.6%
砕 石	万 m ³	16,422	16,400	16,100	-0.1%	-1.8%
木 材	万 m ³	1,316	1,279	1,300	-2.8%	1.6%
普通鋼鋼材	万 t	2,470	2,578	2,560	4.4%	-0.7%
形 鋼	万 t	566	593	600	4.7%	1.2%
小形棒鋼	万 t	1,009	1,099	1,090	8.9%	-0.8%
アスファルト	万 t	248	240	230	-3.1%	-4.2%

- （注）1. 本見通しは、「平成19年度建設投資見通し（国土交通省 情報管理部 建設調査統計課 平成19年6月12日公表）」をもとに推計したものである。
2. 各資材の対象は、セメントは〔内需量〕、生コンクリート、砕石は〔出荷量〕、木材は〔製材品出荷量〕、骨材は〔供給量〕、普通鋼鋼材、形鋼は〔建設向け受注量〕、小形棒鋼は〔建設向け出荷量〕、アスファルトは〔建設向け等内需量〕。
3. 本見通しの有効数字は、セメントは〔100万t〕、生コンクリート、骨材及び砕石は〔100万m³〕、木材は〔25万m³〕、普通鋼鋼材、形鋼及び小形棒鋼は〔10万t〕、アスファルトは〔5万t〕。
4. 平成18年度の需要量は、骨材、砕石については、第3四半期までは実績値、第4四半期につき推計値を使用しているため、見込み値（イタリック体）。その他の資材については実績値。

ことにより、建設資材の安定的な確保を図り、円滑な建設事業の推進に資することを目的とするものである。

5 対象建設資材

(1)セメント、(2)生コンクリート、(3)骨材、砕石、(4)木材、(5)普通鋼鋼材、形鋼、小形棒鋼及び(6)アスファルトの6資材9品目を対象としている。

6 需要見通し推計方法

平成19年度の主要建設資材の需要見通しは、「平成19年度建設投資見通し（国土交通省 情報管理部 建設調査統計課 平成19年6月12日公表）」の建築（住宅、非住宅）、土木（政府、民間）等の項目ごとの平成19年度建設投資見通し額に、建設資材ごとの原単位（工事費100万円当たりの建設資材需要量）を乗じ、さらに各建設資材の需要実績等を考慮して、平成19年度の主要な建設資材の国内需要の推計を行った。

7 建設資材の需要見通しの対象

建設資材の需要見通しの対象は、次のとおりである。

(1) セメント

国内メーカーの国内販売量に海外メーカーからの輸入量を加えた販売等の量を対象としている。

「内需量」＝「国内販売量」＋「輸入量」

なお、表 2 及び図 2 の「内需量」のうち、平成18年度までは実績値であり、社団法人セメント協会の資料の値を用いている。

(2) 生コンクリート

全国生コンクリート工業組合連合会組合員工場の出荷量とその他の工場の推定出荷量とを加えた出荷量を対象としている。

「出荷量」＝「組合員工場出荷量」

＋「その他工場推定出荷量」

なお、表 2 及び図 2 の「出荷量」のうち、平成18年度までは実績値であり、全国生コンクリート工業組合連合会の資料の値を用いている。

表 2 主要建設資材の

	セメント (内需量)		生コンクリート (出荷量)		骨材 (供給量)		砕石 (出荷量)	
	千 t	前年度比 (%)	千 m ³	前年度比 (%)	千 m ³	前年度比 (%)	千 m ³	前年度比 (%)
5年度	78,616	4.3	172,615	5.1	540,000	3.1	266,250	5.5
6年度	79,743	1.4	175,773	1.8	532,500	1.4	259,938	2.4
7年度	80,377	0.8	175,723	0.0	530,625	0.4	258,875	0.4
8年度	82,417	2.5	180,256	2.6	538,750	1.5	275,125	6.3
9年度	76,573	7.1	167,292	7.2	512,500	4.9	253,250	8.0
10年度	70,719	7.6	153,308	8.4	459,375	10.4	228,688	9.7
11年度	71,515	1.1	151,167	1.4	455,625	0.8	222,438	2.7
12年度	71,435	0.1	149,483	1.1	458,750	0.7	219,156	1.5
13年度	67,811	5.1	139,588	6.6	466,250	1.6	209,089	4.6
14年度	63,514	6.3	131,413	5.9	442,500	5.1	191,503	8.4
15年度	59,687	6.0	123,735	5.8	414,237	6.4	179,269	6.4
16年度	57,569	3.5	118,982	3.8	368,750	11.0	165,265	7.8
17年度	59,089	2.6	121,549	2.2	343,130	6.9	164,219	0.6
18年度	58,990	0.2	121,900	0.3	344,000	0.3	164,000	0.1

(注) 1. 各資材の需要量は四捨五入して算出しているため、各月の合計と年度計とは一致しない。

2. 前年度比欄の はマイナス。

3. 骨材・砕石は、平成17年度までは実績値、平成18年度は、第3四半期までは実績値、第4四半期につき推計値（イタリック体）。

(3) 骨 材

国内における供給量を対象としており，輸入骨材も含んでいる。

なお，表 2 及び図 2 の「供給量」のうち，平成17年度までは実績値，平成18年度は，第3四半期までは実績値，第4四半期は推計値であり，経済産業省製造産業局住宅産業窯業建材課の資料の値を参考としている。

(4) 砕 石

メーカーの国内向け出荷量を対象としている。

なお，表 2 及び図 2 の「出荷量」のうち，平成17年度までは実績値，平成18年度は，第3四半期までは実績値，第4四半期は推計値であり，経済産業省「砕石統計年報」の値を用いている。

(5) 木 材

国内メーカーの製材品出荷量を対象としており，建設向け以外の量を含んでいる。また，製材用素材として外材を含んでいる。

なお，表 2 及び図 2 の「製材品出荷量」のうち，平成18年度までは実績値であり，農林水産省「製材統計」の値を用いている。

(6) 普通鋼鋼材及び形鋼

国内メーカーの国内建設向け受注量を対象としている。

なお，表 2 及び図 2 の「建設向け受注量」のうち，平成18年度までは実績値であり，社団法人日本鉄鋼連盟の資料の値（国内向け受注総量から国内建設向け受注量を推計したもの）を用いている。

(7) 小形棒鋼

国内メーカー及び国内販売業者からの国内建設向け出荷量を対象としている。ただし，海外メーカーからの輸入量は含まれていない。

なお，表 2 及び図 2 の「建設向け出荷量」のうち，平成18年度までは実績値であり，経済産業省「鉄鋼需給動態統計」の値を用いている。

(8) アスファルト

国内メーカーの建設向けストレートアスファルト内需量のうち，燃焼用及び工業用を除いた国内建設向け等内需量を対象としている。

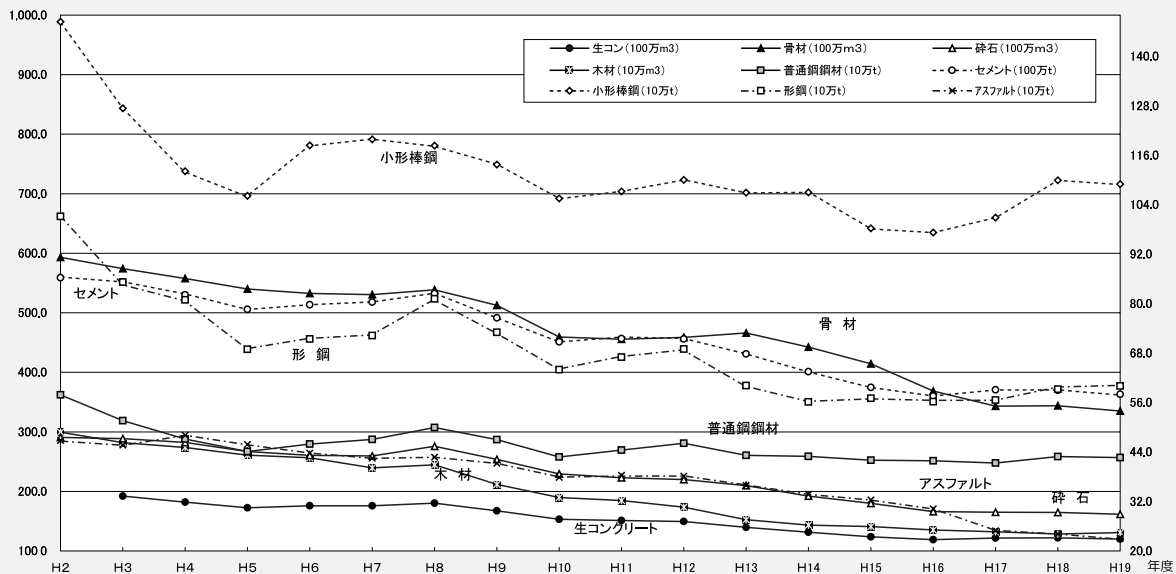
「建設向け等内需量」=「国内建設向け内需量」+「建設向け輸入量」

国内需要量実績の推移

国土交通省 総合政策局 労働資材対策室
平成19年 6月19日 現在

木 材 (製材品出荷量)		普通鋼鋼材 (建設向け受注量)		形 鋼 (建設向け受注量)		小形棒鋼 (建設向け出荷量)		アスファルト (建設向け等内需量)	
千 m ³	前年度比 (%)	千 t	前年度比 (%)	千 t	前年度比 (%)	千 t	前年度比 (%)	千 t	前年度比 (%)
26,022	4.8	26,633	7.3	6,892	14.8	10,615	5.3	4,573	4.7
25,592	1.7	27,876	4.7	7,141	3.6	11,837	11.5	4,361	4.6
23,880	6.7	28,667	2.8	7,226	1.2	11,988	1.3	4,243	2.7
24,395	2.2	30,659	6.9	8,114	12.3	11,836	1.3	4,266	0.5
21,103	13.5	28,642	6.6	7,303	10.0	11,373	3.9	4,117	3.5
18,924	10.3	25,715	10.2	6,399	12.4	10,554	7.2	3,777	8.3
18,396	2.8	26,863	4.5	6,704	4.8	10,726	1.6	3,823	1.2
17,282	6.1	28,024	4.3	6,896	2.9	11,001	2.6	3,804	0.5
15,196	12.1	26,004	7.2	6,011	12.8	10,695	2.8	3,580	5.9
14,270	6.1	25,828	0.7	5,615	6.6	10,700	0.0	3,366	6.0
14,042	1.6	25,177	2.5	5,704	1.6	9,827	8.2	3,229	4.1
13,446	4.2	25,066	0.4	5,623	1.4	9,725	1.0	3,014	6.7
13,161	2.1	24,703	1.4	5,659	0.6	10,089	3.7	2,478	17.8
12,791	2.8	25,781	4.4	5,926	4.7	10,991	8.9	2,400	3.1

出典 ・セメント...社団法人セメント協会 資料
 ・木材...農林水産省 資料(製材統計)
 ・アスファルト...石油連盟 資料(石油アスファルト統計月報)
 ・生コンクリート...全国生コンクリート工業組合連合会・協同組合連合会 資料
 ・普通鋼鋼材，形鋼，小形棒鋼...社団法人日本鉄鋼連盟 資料



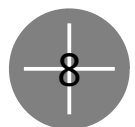
(注) グラフの見方・実線(生コンクリート, 骨材, 砕石, 木材, 普通鋼鋼材)については左軸, 点線(セメント, 小形棒鋼, 形鋼, アスファルト)については右軸を参照。

- ・生コンクリートの平成3年度以前のデータについては, 集計方法が異なるため, 未掲載。
- ・平成18年度の需要量は骨材, 砕石については, 第3四半期までは実績値, 第4四半期につき推計値, アスファルトについては, 見込み値, その他の資材については実績値。
- ・平成19年度の需要量は見通しの値。

《資料出所》
 セメント...(社)セメント協会 資料
 生コンクリート...全国生コンクリート工業組合・協同組合連合会 資料
 骨材...経済産業省 製造産業局 住宅産業窯業建材課 資料
 砕石...経済産業省 資料(砕石統計年報)
 木材...農林水産省 資料(製材統計)
 普通鋼鋼材...(社)日本鉄鋼連盟 資料
 形鋼...(社)日本鉄鋼連盟 資料
 小形棒鋼...(社)日本鉄鋼連盟 資料
 アスファルト...石油連盟 資料

図 2 主要建設資材需要量の年度推移

なお, 表 2 及び図 2 の「建設向け等内需量」のうち, 平成18年度までは実績値であり, 石油連盟「石油アスファルト統計月報」の値を用いている。(インターネットアドレス <http://www.mlit.go.jp/toukeijouhou/chojou/index.html>)



おわりに

当課では, 毎年行っている「主要建設資材需要見通し」以外に, 毎月, 「主要建設資材月別需要予測」や「主要建設資材需給・価格動向調査」を公表し, 建設資材の需給に関するの情報提供を行

っている。

現在, 世界的な需要の高まりや資源保護政策の強化などで, 特に原油や鉄鋼の価格が高騰しているため, 建設資材の需給については注視している。

関係各位におかれましては建設資材が円滑に調達できるよう引き続き, ご理解, ご協力をお願いします。

なお, 本件は, 国土交通省のホームページ(統計情報のページ)で公表しているので参照されたい(<http://www.mlit.go.jp/toukeijouhou/chojou/index.html>)。